

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購 買 生 産 指 導 部  
購 買 推 進 課

## 北米コンテナ船情勢

中国及びアジア諸国から米国向けのコンテナ輸出量は製造業の部品や年末商戦向けの貨物を中心に急増しています。この貨物の増加は米国各港で混乱を引き起こしています。アメリカ貿易の要である、ロサンゼルス港及びロングビーチ港の発表によると今年7-9月の両港でのコンテナの取り扱いには四半期としては過去最高を記録しています。このためターミナルでは急増したコンテナのハンドリングが追いついておらず、最近では寄港できずに沖合で滞船する本船が増えており、スケジュールの遅延が発生しています。今後冬場に入るため例年、荒天によりスケジュールが乱れやすいシアトル港、タコマ港、バンクーバー港から出るPNW発の牧草だけでなく、ロサンゼルス港及びロングビーチ港を含むPSW発の牧草のスケジュールにも注視が必要です。

またアジア発米国向け航路の運賃は非常に高い水準を維持していることから、早期に空コンテナをアジア向けに手配するため、船社によっては米国で輸出用の貨物を受け付けず、空のままコンテナをアジアに送り返す動きも見られています。このような背景から、船社によっては北米発日本向け貨物に対する大幅な運賃値上げのGRI（海上運賃一斉値上げ）をアナウンスしており、こちらの動向にも注視が必要です。

## ビートパルプ

### 【米国】

主産地では収穫作業は後半に差し掛かっています。

ミシガン州では収穫は折り返しを迎えています。10月にいくつか降雨があったため収穫作業に若干の遅れが出ています。単収は例年よりも高く26.3-27.2トン/エーカーとなっています。糖分含量の予測につきましては18%となっており過去5年平均より若干高めで上々な品質となっています。

ノースダコタ州東南部ミンダック地区では収穫作業は終了しています。生育期の早魃とビートの病気の影響により、単収は22トン/エーカーから23トン/エーカーと過去5年間の平均に比べおおよそ3トン/エーカーほど下回っています。糖分含量は過去5年の平均に比べると高く17%ほどになると予想されています。

ミネソタ州中南部サザンミネソタ地区では冬季を前に収穫を終えています。単収は、例年よりも2.7トン/エーカーほど多い26.8MT/エーカー、糖分含量は、過去5年平均よりも1ポイント高い17%程度と予想されています。

## アルファルファ

### ワシントン州

主産地コロンビアベースンでは4番刈の収穫を終了しています。南部では5番刈の収穫がされていますが、気温が低く十分に乾燥できないため、これらは輸出向けでなく内需向けで流通されます。4番刈については、収穫時における山火事の煙の影響で乾燥に通常よりも時間を要したことから、多くのアルファルファで色目の脱色したブリーチが混入しており、且つドライな品質のものが発生しています。産地相場については分析の高い上級品は発生量が限られていることもあり堅調な価格で取引されていますが、中低級品は相場が落ち着いています。

### オレゴン州

南部クラマスフォールズでは9月下旬より4番刈の収穫作業が開始され、現在ほとんどの生産者で20年産の生産を終えています。

3番刈の品質は、収穫時期の後半に当たる9月上旬頃から産地でも山火事の煙が立ち込めましたが、幸い煙はそれほど濃くならず、品質に大きな影響はありませんでした。他方で収穫時期に昼夜の寒暖差があまりなかったことから、夜露が十分に発生せず一部でドライな仕上がりとなっています。

中部のクリスマスバレーでは20年産の最後となる3番刈の収穫が終了しています。

9月中旬頃から収穫が開始され、色目は綺麗なもののベーリング時に夜露の発生が少なかったことで、ややドライな仕上がりアルファルファが散見されています。

産地相場に関しては、ワシントン産4番刈の作況が芳しくなかったことから、輸出業者及び内需による高成分の上級品に対する需要は強く、引き続き堅調に推移しています。



(左：3番刈の収穫を終えた圃場 10月中旬 クリスマスバレーにて  
右：4番刈のアルファルファ 10月中旬 クラマスフォールズにて撮影)

## ネバダ州・ユタ州

北部ウィナマッカでは4番刈の収穫を終え、20年産の生産を終了しています。西部イエリントンでは最終番手となる5番刈を収穫しています。産地は近年アルファルファの作付けが減少している北カルフォルニアに近いこともあり、カルフォルニアの大型酪農家による積極的な買い付けが行われており相場は堅調です。

## カリフォルニア州

南部インペリアルバレーでは8番刈、生産者によっては9番刈の収穫が行われています。天候も冷涼になっていることから分析値は回復し上級品も一部発生しています。

北部ディクソン地区では一部の生産者で6番刈の収穫を行っていますが、多くの生産者において5番刈で20年産の生産を終えています。20年産は1番刈、2番刈では色目がきれいな良品が生産されましたが、湿気が高かった3番刈、収穫後期から山火事の煙の影響が出た4番刈で、色目の悪くブリーチが混じった品質が多く発生しています。

## 米国産チモシー

主産地であるコロンビアベースンでは2番刈の収穫作業が終了しています。2番刈は収穫期の天候が安定していたことから、作況は例年並みとなっています。ペットや馬向けといった米国内需および海外からの馬向けの引き合いは強く、2番刈の相場は1番刈同様19年産に比べ上昇しています

## スーダングラス

主産地であるインペリアルバレーでは20年産の収穫が終了しています。19年産に比べ作付面積が減少したこともあり、産地周辺の圃場では売りに出されているスタックが見られず、良品を追加購入することは難しい状況です。

## クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

20年産の収穫は終盤を迎えており、産地では5番刈、生産者によっては6番刈の収穫が行われています。気温が低くなっていることから、単収は少なく中級品中心の発生となっています。

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主要産地のウィラメットバレーでは、アニュアル種、ペレニアル種のライグラスストローとフェスクストローの収穫が終了しています。収穫期間中は好天に恵まれ良品が発生しています。産地相場は繰り越し在庫のなかった輸出業者からの需要が強く昨年よりも高値で推移しております。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジでは 2 番刈の収穫を終えています。19 年産で雪害の影響を受けた一部の生産者で例年よりも早い 8 月下旬から収穫を開始しましたが、多くの生産者が単収を期待し 9 月の第 3 週から収穫を開始しました。一部で上級品が生産できたものの、収穫期に降雨に見舞われた地域もあったため 2 番刈は中級品中心の作況となっています。

## 豪州産オーツハイ

### 西豪州

9 月中旬から収穫が開始され、現在は終盤を迎えています。10 月下旬も引き続き天候に恵まれ理想的なコンディションのなか収穫が行われました。収穫期に一部で少量の降雨があったものの、作況に大きな影響なく 20 年産は全般見込み、分析ともに良好で上級品の発生が期待されています。

### 南豪州

全ての地域で刈り取りを終えており、順次ベーリングが行われています。収穫期に断続的な降雨があったため、雨当たり品が多く発生しており 20 年産は非常に厳しい作況となっています。一方で晩生を栽培する一部の地域では降雨被害は軽微なものとなっており、ますますの品質のオーツハイが生産されています。南豪州は地域と降雨状況によって品質にバラつきが出ています。

### 東豪州

10 月末に降雨があったものの、現在産地ではベーリング作業が本格化しています。南豪州同様、収穫期に複数回降雨があったため地域によって降雨被害に差が出ています。上級品の発生は限定的になることが予想されています。

## 豪州コンテナ船情勢

豪州港湾ターミナル大手パトリック社と東豪州港湾労働者組合の間で引き続き労使交渉が行われています。10 月 26 日が交渉期限として設定されていましたが、合意に至らなかったため 12 月 1 日まで期限は延長されています。現在では港湾労働者側による作業停止や荷役の遅延行為はなくなりましたが、東豪州のメルボルン港ではこれまで蓄積した貨物による混雑が解消できていないため、本船は引き続き 2 - 3 週間の遅れで運航されています。

以上